
僕とバカと召喚獣達！

麗也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕とバカと召喚獣達！

【Zマーク】

Z3080Z

【作者名】

麗也

【あらすじ】

ここ文月学園に転入してきた影譏麗やは2・F組の仲間達と楽しいく無事にちゃんとした生活を送ることができただろうか？そして幼馴染との再会と展開は・・・

キャラクター紹介（前書き）

初めまして！初めて投稿してみましたが、下手くそでいいません！
こんな下手な小説をみてくれたらとても嬉しいです。

キャラクター紹介

キャラ紹介

主な登場人物

影譲麗也 木下姉弟との幼馴染。観察処分者同様の力が使える。明久の次にバ力。

吉井明久 文月学園を代表するバ力。観察処分者。

坂本雄二 小学校の時は神童だった。不良。頭がとてもキレる。

土屋康太ムツシローリ 保健体育以外は何もできないバ力。写真を撮るのが得意。まう。料理が得意。

木下秀吉 演劇部に所属している。文月学園が誇る美少女? 声帯模写ができる。

霧島翔子 学園首席。一途な女の子。自称坂本雄一の妻。

姫路瑞希 学年トップ2。料理の腕は殺人級。吉井明久に恋をしている。

島田美波 ポニーテールと釣り目が特徴の女の子。ヤンデレ。吉井明久に恋をしている。

る。

木下優子 B-L本が大好きな女の子。なぜか顔
はカワイイはずなのにもてない。

な女の子。
清水美晴 同性愛者。島田美波のことが大好き

久保利光 清水美晴同様同性愛者。吉井明久が
大好きな男の子。

工藤愛子 ボーイッシュな女の子。保健体育は
実技が得意。人をからかうのが好き。

（ストーリー紹介）

に転入してきた。

送るのだろうか？

そして、久々に会う幼馴染の反応は？

主人公影譲麗也は高校2年生の春にここ文月学園

キャラクター紹介（後書き）

これから作品作りに入りますが、なるべく下手に書かないようにがんばりたいです。では、期待している人はあまり期待しないで下さい。でも、頑張って自分なりに書いてみます！

～出でこ～（前書き）

さつそく第一話投稿してみたいと思います！書き方は下手くそですが、そんなの気にせずに読んで頂けたら幸いです。

～出会～

影譲 side

桜が満開に咲くこの文

円学園に僕は今日

転校する・・・ちよつと心配だ・・・。

第一回の方に来るのは大分久しぶりだ。

この僕のことなんて誰も覚えていないと

思つし、だいたい僕の事を覚えている奴

がいたとしても僕の知らない奴だろう・・

たぶん・・・もし、僕の幼馴染がこの

学校にいたらな〜。・・・・・。

つて!こんな事してられなかつたんだ!

急げ、急げーーー早くしないと遅刻しちゃ・

ドンッ!

「痛つ！す、すいません！前ひやんと見て
いなかつた

ものだから！」

「いてて・・僕も前見ていなかつたからご

めんね・・つて

君誰？」

「あつー僕、今日転校する影議麗也と言
います！よろしく
お願いします！あの・・君は誰ですか？」

「あつー僕？僕は吉井明久って言つ名前で

君と同じ

間ー悪いけど

学校の生徒だよ・・つてーもうこんな時

僕もつ行くよ！遅刻しちゃうと鉄人に怒
られちやうから

ねー君も早く行つたほうがいいよーーー！
！・・・

あ・・行つちやつた・・僕も急いだ方が
いいや。

それにしてもこの学校（文月学園）に入
る前に

振り分け試験？つて言つテリストをやつた
けど大

丈夫かなーー?僕、テストやる前にずい

ぶんと

遊んじゃつたから全くできなかつたんだよな~

たぶん僕の予想で絶対に点数は悪いな・・

どうしようか?もし、点数が悪すぎると

最低と

言われているFクラスに入っちゃうもんな~

本当にどうしようか?まつ!いいか!どうせ良い

点数なんてとれるわけないし、それにあんまり悪い

方向に考えるとろくなことはないしな!

マイナス

思考はダメー・プラス思考、プラス思考!

うとうん!

きつと大丈夫なはず・・・うん、きつと

大丈夫を・・・

まあしかたがないよ！

Fクラスに入るしか

ないよな～

スに入る事に

なんでこいつた・・よつてFクラ

やつぱり嫌だ

なるなんて・・どうしよう、どうしよう・

な～・・もしも、知っている奴一人も

いなくて孤独のまま

一年を過ごす事になつたら僕泣いちゃ

うよ～

題のFクラスの

そんな事を考えながら歩いていふと問

いる・・・

前に来ていた・・嫌なオーラが漂つて

「やつぱり、こんな点数だよな～ま、

遊んでいた自分が悪いんだし・・諦め

「

そんな事を考えて「い」と教室の方から

担任と思われる

- ・なんだりう?
- ・男性がクラスの皆さんに何かを話している。

担任（福原慎）「それでは今日は転校生が来ているので皆さんに紹介をしたいと思います。教室に入つてわいわいださー。」

- ・確か誰かが
- ・あつ！僕とつひと呼び呼ばれかけたよ。・

言つていたなーーー人の印象つて言つのは、最初に決

まるつて・・つん！最初で決まるのなら皆を圧倒させる

よつな皿口紹介をしつやねー・つるー・や

つてやるべーもつ、

決心はしたべー・つるー・やつてやねー・

担任（福原慎）「どうしたんですか？入つてきてもいいんですよー。」

ばれたようだ・・

そんな考え方をしてくる内にどうやら呼

「失礼しまーす！まず、初めに僕の名前
は影譲麗也と

申します！これから一年間よろしく
お願いしまーす！」

「クラスの皆「…………」

え？ ちよつと唐突すぎたかな～？ なん
か皆僕の事を見る

「…………」
いつ視線で見ている

視線が「バカだ・・・コイツ・・・」って
よ？ いつたい何がいけなかつたんだろ

う？

そんな考え方をしている時、誰かが僕の
ことについで

しゃべっていた……

「あ！ あの人確か校門の前でぶつかっ
たひどだ！ えーっと

「確か名前は…………」

「影譲麗也じゅりやーおやぢー…………」

よ・・・つて！なんで

秀吉影讓くんのこと知ってるの?」

「知つてあるもなにも・・・麗也はわ

しの久野義清

卷之二

卷之三

そこでしゃべっていたのは、吉井く

僕の幼馴染だつた・・・

んと

～出会い～（後書き）

いかがだったでしょうか？ほとんどの書き方は原作と同じになっちゃいました。すいません！書き方があまり僕分からないのでちょっと同じになっちゃいましたが、もう少し！後、ほんのもう少しでいいんです！そうしたら、自分オリジナルな書き方を見つけてみせますので、もう少し、この書き方でよければこの小説を見ていただくとありがたいです。後、この小説を見ていただきありがとうございました！

* 説明下手ですいません。あと、追加のキャラクター紹介 今更すいません！

福原慎 明久達の担任。

鉄人 西村教諭のこと。あと、補習担当の先生。

後、自分のことを小説に出していくますが、すいません。これもやっぱり欲望といいますか、欲と言いますか・・・とにかく自分を出しちゃってすいません！でも、そんな

小説でもよければ、見てください！みていた
だければ、幸いです。

～紹介～（前書き）

一気に今日で二つ投稿させて頂きます！みていただければこちらと
しても幸いです。今回は、ちょっとタイトルがタイトルなだけに小
説はほんの少し短いです。

影譲 side

「いや～まさか秀吉がいたとは思わなか

つた
よ～～！」

「いや～・・わしも正直びっくりじゃぞ？

また
麗也と会ひませぬわなかつたからね。

「

「いや、僕の方がびっくりだよー・それに
秀吉
に会えて嬉しいしー！」

「そいつ言つてもうらぶると嬉しいのうー！

わし
も会えて嬉しいのうー！」

「あれ？・そういうえば優子は？・秀吉、優子
はど

「ここにいるの？」

「姉上のことが？・それがじゅつたな・・麗

也

ラス

なにも知らぬからね・・姉上は△ク

「えつ！あの優子が？昔はバカだつたあ

「えつ！あの優子が？昔はバカだつたあ
の優

子がAクラスだつて？へえー成長した
んだ

な～優子も。昔は・・

明久「あのー楽しく話している途中悪いけど・

須川くん達が思いつきつ影譲ぐんのこ
と睨

んでこるよ・・・ほひ。

『えつ？』

「う・・・本当だ・・思いつきり僕の

睨んでいるね・・びうしてか分からな

ど、これ以上秀吉と話せない方がいい
い

・

い

こと

の会

長だから、あんまり彼の前で女子とイ

(1)「だけの話、須川くんは異端審問会

・まだ話したいけど。

チャ

メだ

イチヤしゃべつたり遊んだりしちゃダ
よ~殺されひやつから・・・)

うと

の発

その場から離れた・・でも、吉井くん

言はけよつと疑問に思つ所がある・・・

秀吉は女の子じゃないんだけどな~・・・

まーいつか! 気にしない! 気にしない!

「あー影譲くん、まだ秀吉以外の人達の
は知らないとおもうから、一人ずつ自

こと

己紹

介しようよー!」

??.?.? 「おひ・・それがいいな。」

そつそつと髪の高い頭がつんつんな人

が自

己紹介を始めた・・

「俺の名前は、坂本雄一ってんだ。代表

でも坂本でもどっちでもいい……これから

よろ

しくな。」

そうやつてダルそつに自己紹介をする

と寝

てしまった。大丈夫なのかな——？

? ? ? 「じゃあ、次は俺がやる……」

そう言つと小柄な体格をした男性が前に

いで

て自己紹介を始めた・・・

「・・・名前は土屋康太・・・」

名前だけ言つとササッと小走りに走つ

たが

去り際に何かを落とした・・なんだろ

う?

う?

カメラ? カメラなんか何に使うんだろう

「これは・・授業の様子を撮るためにも
の・

・・・

「 「 「 嘘だつー。」 」

うと? ものすゞこシッコ!! をこれられ

たけ

ど、別に変なことは言つてないよ? そ

れに、

さつきまで寝ていた坂本くんもシッコ
ミを

いれるべういだから、さつと嘘が皆に
とつ

てはもう見え見えなんだうつ・・。

「おー! ムツツツーー・・影譲の前でな

に平

然と嘘つくんだ! いいじゃねーかべつ

にい

つかは知ることなんだから・・影譲! -
! !

このカメラはなーいやらしこじとを

する

ために使うカメラだ！」

「へえーそつなんだ―――ってええ―――
それって犯罪じやないの―――！」

「・・・・・・・（ブンブン）」

必死に首をふっているけどもう遅いよ
？？

事実知っちゃったし・・・

「さて――れで一応この場にいる奴全員
は紹

介し終えた・・・

「まだでしょ――――――まだこの

紹介をしていないでしょ――――全く・・・

雄二には呆れるよ・・・

「おーすまなかつた・・明久がまだだつ
・・・いいぞ・・そつとやれ。」

たな

「つたく・・じゃあ改めて紹介するね！

僕の

影譲

の！

名前は吉井あきひで……ってなんでも
くんと秀吉以外の二人は帰っちゃった

そんなに僕のことはどうでもいいのお

……

「…………」

「吉井くん、行ってしまったのう…………

「皆、行ってしまったのう…………

僕はある意味このクラスでやつていく

こと

た・

……

ができると、この時心の底からおもっ

～紹介～（後書き）

すいません！予定より文が長くなつてしましました・・でも、こんな小説でも読んで頂けると僕としては嬉しい限りです！

～誘い～（前書き）

応援頂いているよつで嬉しいです！今回は秀吉と麗也が遊ぶ話です
！見ていただけたら幸いです！

影譲 side

あーやつと授業全て終わつた――！

慣れていないせいかずいぶんと時間を
長く感じたな―――さて―もう授業
は終わつたし・・・もう疲れだし、帰
るうかな――・・・

と、そんなこと思つてゐるとひとつの
人が近づいてきた・・うん？よく見た
ら秀吉じゃないか！いつたいなんの用
だろ？・・・

「麗也よ・・今日・・ひまかのう？」

「えつー別に用事はないけど・・・

「だ、だつたら今日久しぶりに遊ば
ないかのうーわし、何もすること
がなくて悩んでおつたんじゃが・

・・エウかのウヘー。」

「「つーん・・どつこりうつかな~? 今
日、暇じやないけビ、疲れたから
な~・・」

「あつー別に無理じやつたらここの
じやだ~?」

あー…そつこえば秀吉と遊ぶのは久
じぶりだな~こじで断るのもで
あるナビ、せつかくの誘いだし、
なんか断るのも悪い気がするしな
~・・・つてアレ? 僕つてこんな
優柔不斷な男だつけ? と、とにかく
くー! 秀吉のせつかくの誘いだし、
遊びじやおつかー!

「いいよー別に、僕も暇だつたしや
!」

「ほ、本当かのつーじやあ、帰つた
らすぐたまに来るのじやぞ? あつ

！わしの家は知つておるな？昔と
変わらない所にあるからのう！…じ
やあの‘つ…’

タタタタタッ！

あ！行つちやつた・・そんなに嬉
しかつたのかな？ま！僕も久し
ぶりに話せて嬉しいし！走つてか
えろつと！

僕はなぜか足がとても弾んでいた
・・・なんでだらう？

「こ…」だつたよね～確かに秀吉の家つ
て・・・」

僕は自分でも早いと思われるほど

早く秀吉の家に着いてしまつた・

・・うんつ？確かに前にはこんな所

に花壇なんてなかつたはずなんだ
けどな～～？ま、おおよそ考え方
くのは、たぶん秀吉のお母さんが
飾つたんだろう・・・つとーそんな
事よりも早くいかなきやー秀吉待
たすのも悪いし・・わざくイン
ターфонをおせせてもらひつかな
?

ピンポーン

ターホンから秀吉の声が聞こえた
そうじてひよつと経つた後にイン
ターфонから秀吉の声が聞こえた
…

「ちよつと、待つのじや。」

吉がドアの前に来た・・つて早い

なー！

「 セウー・セウー・早く入るのじゅー 」

僕は秀吉の家に入るのになぜかド

キドキした・・・

～誘い～（後書き）

まだ秀吉と遊ぶ編はまだ終わっていないのでまたよんでも頂くと幸いです。

～思ひ出語～（前書き）

今回で「」の話が終わるよう、頑張って書きます！読んで頂くと嬉しいです！

影譲 side e

「おじやましまーす！」

僕はなぜか懶を呪で家の中に入った・

・
上へ

僕・・じつはかつたんだが・・

アヒハツト御さんこと、こいつの間で

か秀

34

吉の部屋に入っていた・

「さういふ一何して遊ぼうかのう 麗也一

「ちよつと待つて一秀吉一ちよつと落ち着いひへね?・
し過ぎ一ちよつと落ち着いひへね?・

り乱

」

乱れ

「あ、せうじやつたな・・ちよつと気が

ていた・・すまん・・

「あつ！別に謝らなくていいよー特この

気に

しないし・・・」

「やつか？いやーやつぱり麗せは優しい

のや。」

「や、そんな事言つたら照れるな～・・・
つとん

な事よりもなにして遊ぼうか～・・・

「やつじや のや～・・・いや～実は」れい
つて特に
しようか
の～？」

「やん・・僕もここに来る前にここも

聞いてい

なかつたし、持ち物もなにを持つてく
るのか聞

いていなかつたし・・本並じでひつよ
うか？

校ではあ

須川くん

まつはなせなかつたな～まーほとんど

つたつて

言つ事實があるんだけどね・・あつ・

そうだ！

久しぶり

久しぶりつていつのもあるし、秀吉と
に話そうちかな～？僕も話したいことが

あるし・

・・・うん！決定！

話とか、

「あ、あのさ～秀吉、僕と久しぶりに会
思い出話とかしないかい？ほらーその・
・や

りたい事とか考えつしまでさー・・ダ
メかな？」

も麗也と

「・・・えつ？そ、そうじやの～！わし

話したいことがあるし・・よしー・じゅ

あさつそ

くなにか話そうとこよひつかの～麗也よ

？」

揺しすが

「や、そりだね～。それで秀吉動
じやない? なにかあったの?」

「や、それはひからせにせつじやー麗也
だつてわ

ひからお口も口こじゆうやくわいへ。」

「いや、なんか秀吉と対面するとなんか

ひみつ

昔と違つて緊張するんだよね～なぜか・
・

・

「・・・すまん。それはわしもじや・・・

「・・・・・・・・・・・・

しばしの沈黙・・・うーんなんか昔み

たいに普

通に話すことができないかな～? •
つかな～? •

めいひ

そんなことを考えてこぬつりアドアか

らノック

がかかった・・

トントン
ンテント

「・・・あ、誰なのじゃ？」

「もつー私に決まってるじゃないいい

からあけ

わよ？」

ガチャ

「お、おー姉上じやつたか・・いつたい
何の用じや？」

「いや・・・ただマンガを取りに来た・・

つてわから

男性は誰？」

「ん？姉上よ・・・もう忘れてしまったの
かの？麗也

「じゃ。影譲麗也じや・・・」

「あー麗也なのーー久しぶりねー元気だ
つた？」

「うん・・・おかげさまで・・・（はあ

（～）」

こんでるナビ

「うん？なによ？柄にもなくかなつおち

・・・何かあったの?」

「うむ。実はのう・・・」

～説明中～

「ふ～ん・・なるほどね。久しぶりに会つて二人とも緊張してるんだ～・・だつたら解決策は一つね・・」

「む? 姉上よ・・もつたいぶらぎに早く教えるのじや。」「

「せつだよー優子! せつだと教えてよー! 」

「それはね・・なにも考えずにお互いの素直な気持ちをそのまま言葉にしてぶつけあわせばいいのよ~」

「・・・? 言葉にしてぶつける・・じゅと?」

「・・・優子、もうちょっと分かりやすく説明してくれるかな~?」

「んもうーだからー思つたことをそのま

ちよつと遠慮して

「いい感じだ。」

「思つたことをそのまま言つていい。」

「そつね……だって私からみたら互いに見えたのじよつ

てるものがみえてるもん。」

「姉上から見たわしうまほんなふつに

たのか……」

「確かに……優子の言つとおりかもね……

」

・後は一人でうん……確かに僕もじよつと遠慮して

どうにかしなさい……

ガチャ

た部分があつた

かも……

「わしもじよつ、せんせーじよつ、優子の言つてた通り、心

に墮つたことを

「うそーじよつ、優子の言つてた通り、心

「あぐー元気つかなか～？」

「あい。わしもいたからアハハ！」

「あい。」

「じゃー改めて話すかー秀吉ー。」

「アハハのー麗也ー。」

「アハハのー秀吉ーとおはやく、

楽しかった事

や困難だったこと、色々なことを話していきた辺りは

もう嘘かった。。。もう歸らなくへやー。

「いふと秀吉ー。もう嘘くなつたからアハハ

時がたつのね・時がたつのね・

・・・」

「やだね・また今度遊びつぬー秀吉

ー・今日はま〜べ

樂しかったよーじゃあねー！

「じゃあのー麗也ーわしあすこへ樂し

かつたのじゃー！

また、遊ぼうのうー！」

「うんー！じゃあね～秀吉またね～～！・

「・・

「行つてしまつたのう・・

「あんた達、あの後つまくいつたのね・・

「

してねぞーー！」

「うむー！これも姉上のおかげじゃー！感謝

「あへら・・私なにかいつたかしらー？」

「相変わらず素直じゃないのう・・まる

で素直じゃない

麗也みたいじゃ のう・・」

「ハックショーンー！う・・誰か僕のうわ
さしたのかなー？」

そしてそんなことを思つていながらも

頭には今日のこと

でいっぱいだった・・・。

～思い出話～（後書き）

いかがだったでしょうか？結構長く書いてしまいましたが最後まで
読めてもらえたなら幸いです。

～召喚戦争～（前書き）

あ～本当にすいません…一日間もやらなくて…いろいろ事情があつたもので…。

そんなことよりも次に書く小説は試験召喚獣戦争編です！多少原作とカブりますが（もしかしたらすぐカブるかも）、見ていただけたら幸いです。

～召喚戦争～

影譲 S.P.D.e

「へへん・・・今日はやけに眠たいな・・・

「本当に今日が晴れやうやう・・・くたをしたら授業中にでも

天気が良いな～寝てしまふだ・・・それにしても今日は

じこりやんがそひこひまひこじがあるひとよくお

じこりこりひとが

起きたな～よしーそつかんがえると本

「へへん・誰かと思つたら秀吉じやないか・・・

「おはようつー・秀吉ー・

「聞こえてきた・・・

「ねせよつなのじやーー麗也ー・

おはようつー・秀吉ー・

朝からまたか秀吉に会うなんて思わなかつ

たな～～・・・・

もしかしたらおじこちやんが言つてた良い

ことひいていへりと

かな～～?

「う～ん・・やつぱり秀吉の笑顔を見るとなんか元氣が出でへんな

～～。」

「う～ん・・やつがの～～そんな事を言われると黙れるのじや・・・」

「う～ん・・そんな事ないよ!だつて本当のこ
とだもん!ホラ今だつて

「んなにげん・・き・・ふうわ～あああ～
・・」

・

「お主・・・元氣になつたと言つておるくせ

に大分眠れりじやの～

いつたに昨日の夜はなにをやつていたのじ
や?」

「う～ん・・確かゲームと遊びだつたよ・・

それであつとやつていた

ら、こいつの間にから3時になつちゃつてしま

それでかな?眠いのは・・

そのせいか・・な・・ふわああああー・・

がでる・・

「お主はどんだけ暇なのじゃ・・・もつと自分を大切にするのじゃぞ?」

「うん・・分かつた・・これからは夜の1時までにするよ・・」

「それじゃあ変わらんじゃねー・・・」

秀吉とそんな何気ない話をしているといつ

「正月の夜」

僕は眠気を押し切つてあいさつをした・・

だよね！

「・・・・影譲・麗也・・・だよな？」

アリヤハトムコウツキヒトノミツクヘト

「うん！僕が影譲麗也だけど・・何か用？」

「そつか・・貴様が影譲麗也か・・皆アコイ

ツを今すぐ拘束しろ——！

「ハツ！須川会長！」

「えつ？なになに？なんか僕やつた？？って
痛い痛い！無理やりやらない
でよ！それにそのガムテープ何？まさか、
僕の口に貼る気じゃないよね？」

本当にやめ……ムグググ！」

「影譲麗也確保！これより異端審問会をはじ
める！」

う……なんだなんだ？なにが起こってる
んだ？」

「被告の罪状は？」

「ハツ！被告影譲麗也は「朝から女子とイチ
ヤイチヤしながら登校をしていた」

「です！」

「そ、うか……審議の結果……判決が下され
た……被告をロープ無しバンジー
ジャンプに処する……もついで、被告の
ガムテープを外せ！」

「……ハツ！ハーハーまったく……君たち
は僕を殺す氣かい？」

『当たり前だ！女子といチャイチャしながら

登校するなど・・・

死刑に値する行動だぞ――――――』

「それにしてもなんだい？その、ロープ無し

バンジージャンプって？』

「そのままの意味だ・・・」

「うん？待て待て僕・・冷静に考えるんだ・・

・普通バンジージャンプって

「いづのはロープがあるはずだ・・そして今
彼らがやるつとじているのは

「わち意味することは・・・」

「ロープ無しバンジージャンプ・・これすな

「たちは僕を殺すつてこいつことか――」
「死に値するつてこいつこと・・つてことは君

「今頃氣づいたのか・・バカか！お前は・・

「ハ・・・君たち・・分かつてないな～そん
なことしたらどうなるかって・・・」

「知つていい、そんなことは・・・」

「だつたら今すぐやめた方がいいよ～そんな

こと・・・」

「これをやつたら俺はこのクラスの英雄になれる・・・

「君たちはバカかい？」

そんなことを言ひてゐる間に僕の体は窓のすぐそばまで来ていた・・・

うう・・結構高いな・・・

「須川よー！やめるのじゃー！そんなことはいますぐー！」

「秀吉～～助けて僕を～～！！」

「分かった！いま、助けに行くからのうー！」

よかつた・・やつぱり持つべきものは友達だねー！秀吉には感謝しきれ

ないよ・・・

「ダメだ・・たとえ秀吉だからといって刑の執行を邪魔させる訳には

いかない・・・」

「ええいー！うなつたらすぐこに鉄人を呼んでくるのじゃー！とこつ」とで

麗也ー！もう少しだけ耐えるのじゃぞ？」

「え？ 行かないで秀吉ー秀吉ー————」

「よし・・・そろそろ落とすか・・・

「ま、待つて！ まだ落とさないでよー頼むか

「あー、

「じゃ・・・

「シンド

「うわーー本当に死んじゃうつて——・・・

・

僕はこの時本当に死ぬんだなって改めて思
つた・・・

「ふーーほ、ほんとうに危なかつた・・木の
枝に感謝だな・・

僕は奇跡的に助かった・・落ちてから地面

に着いてしまつて

死ぬんだろうなって思つていたけど・・地

面に着く前に木の枝

感謝だな

に引っかかつて助かつた・・自然の恵みに

「おい・・お前らいつまで遊んでるんだ。さて」と席に座れ・・

あ、確かに坂本くんだつけ？いまのが遊んで
いのよつて見えるつて

このクラスの人たちほどここまでおかしいんだ?

「よし・・全員座つたな・・唐突だがちょつと質問するが、どうぞ？」

お前らこのクソバ環境は不満はないのか?』

「大ありじやああああ——！」

す、すごい・・ま、確かにそうなるよね・・

壊れたちやぶ正・・のクリスじやなかつ

「そこでだ・・俺達はAクラスに召喚戦争を挑もうと思つ・・」

!

僕はそれを聞いた時無望だなどつい、思つ

てしまつた・・・・

～召喚戦争～（後書き）

すいませんー序盤に思いつきり影譲麗也と秀吉のイチャイチャ？な
ものを書いてしまって・・・でもどうしても書きたかったんです！そ
こは「了承ください・・・」

次は召喚戦争の説明とロクラス戦に入るので見ていただけたら幸い
です。後、今回長くなりすぎてすいません！後最後にもう一つ！秀
吉以外のキャラもちゃんと出させてみせます・・・たぶん・・・い
や、絶対に！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3080z/>

僕とバカと召喚獣達！

2011年12月17日12時03分発行